

各 位

2023年11月24日  
株式会社リットーミュージック

渡辺貞夫、菊地雅章、スタン・ゲッツ、アート・ブレイキーなどの大物ジャズマンとの共演を経て、自身の音楽を追求し続けるジャズ・ベーシストの鈴木良雄が、『死ぬまでジャズ～鈴木良雄・自伝』を発売！



インプレスグループで音楽関連のメディア事業を手掛ける株式会社リットーミュージック（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：松本大輔）は、『死ぬまでジャズ～鈴木良雄・自伝』を、2024年1月19日に発売します。

“チンさん”の愛称で国内ジャズ・シーンで親しまれている鈴木良雄は、1969年から73年にかけては渡辺貞夫や菊地雅章のグループで活躍し、1973年の渡米後は、スタン・ゲッツやアート・ブレイキーといった大物ジャズマンのレギュラー・ベーシストとして活動した重鎮ベーシスト。1985年の帰国後は自身のグループを率いて精力的な演奏活動を展開し、喜寿を迎えた現在でもス

ページに立って新作 CD をリリースするなど、衰えぬ音楽への愛と創作意欲を発揮する、日本ジャズ界のリーダー的存在です。

本書は、そんな彼のこれまでの歩みを綴った自伝本。波乱万丈のジャズマン人生をときに面白おかしく、ときに真剣に振り返り、鈴木が何を夢見て生きてきたのか、そしてその信念とは何なのかを浮かび上がらせます。“ベース歴 0 年”でいきなり国内トップのジャズ・グループに参加したのを皮切りに、本人曰く、“水みたいに流れやすいほうにどんどん流れ”ながら、国内のみならずジャズの本場でも活動し歴史の転換点を体感した著者だからこそ実感した、当時のジャズマンのリアルな姿、ジャズという音楽の背景にあるシビアな問題、そして、自身のアイデンティティを追求する大切さは、ジャズ・ファンのみならず多くの人にとっても興味深く読まれることでしょう。

#### ■書誌情報

書名：死ぬまでジャズ～鈴木良雄・自伝

著者：鈴木良雄

仕様：四六判 240 ページ

定価：2,500 円（本体 2,273 円＋税）

発売：2024 年 1 月 19 日

発行：リットーミュージック

商品情報ページ <https://www.rittor-music.co.jp/product/detail/3123343005/>

#### 目次

##### ●第 1 章 幼少時代～音楽一家に生まれて

- ・木曾福島に生まれ育った幼年期
- ・三味線～バイオリンと続いてきた鈴木家のルーツ
- ・バイオリンを習っていた小学生時代
- ・ストレスを感じた東京への引っ越し
- ・ウクレレに夢中になった中学時代
- ・四六時中ギターを弾いた高校時代
- ・ジャズへの道を開いた「テイク・ファイヴ」
- ・初恋……そして失恋

##### ●第 2 章 プロ活動前夜～本格的に音楽の世界へ

- ・ジャズ研のオーディションというパンドラの箱
- ・独学でピアノの研究に励んだ 1 年目
- ・盟友となる増尾好秋の入部
- ・渡辺貞夫との運命的な出会い

- ・ベースへの転向のきっかけ
- ・愛称“チン”の由来
- ・破壊力抜群のタモリ登場
- ・すべての根源はダンモ研にあり

### ●第3章 プロ黎明期～ベーシスト“チン”誕生

- ・ピアニストとしての下積み時代
- ・ベーシストとしての最初の仕事
- ・流れ着いたのはベースという運命
- ・プロ・ミュージシャンとしての洗礼
- ・初めてのアルバム・レコーディング
- ・渡辺貞夫バンドでの海外公演
- ・人間としての弱さが露呈
- ・最初のニューヨーク行きを断念
- ・渡辺貞夫とは正反対だった菊地雅章の音楽
- ・渡米前のさまざまなセッション・ワーク
- ・記念すべき初リーダー・アルバム『フレンズ』

### ●第4章 ニューヨーク～激動の時代

- ・ついにニューヨークへ移住
- ・言葉や文化の違いによるとまどい
- ・ソニー・ロリンズとの2週間
- ・スタン・ゲッツとのカリフォルニア・ツアー
- ・アルバート・デイリーのドロン事件
- ・ニューヨークでの食住事情
- ・妻となる女性への熱烈アプローチ
- ・義父との一世一代の大勝負
- ・マンハッタン・プラザでの夢のような生活
- ・衝撃的だったアート・ブレイキーの音
- ・アート・ブレイキーとのツアーの日々
- ・ジャズを押し上げたドラッグの力
- ・ひと悶着あったアート・ブレイキーとの来日公演
- ・リラックスした演奏ができなかったレコーディング
- ・太陽みたいだったアート・ブレイキー
- ・自我に目覚めたハーレムでの演奏
- ・マイルス・デイヴィスとの邂逅
- ・そのほかのレジェンダリーなミュージシャンとの交流

### ●第5章 帰国～自身の音楽を探求

- ・クラシックの作曲を学んで見えたもの

- ・アーティストとしての覚悟の芽生え
- ・ほかにはない音を提示できた『MATSURI』
- ・自分がバンドのボスとなって
- ・“アーティスト”としての姿を日本で披露
- ・鈴木良雄の音世界『モーニング・ピクチャー』
- ・フュージョンと 16 ビート
- ・日本への帰国前後のあれこれ
- ・日米の違いを感じた帰国直後
- ・日本での初めてのグループ、MATSURI
- ・自分の思いが結実した『フェアリー・テイル』
- ・日米二重生活の終焉
- ・夢の自宅スタジオとその顛末
- ・作曲家的スタンスで作った『ザ・モーメント』
- ・イメージを具現化するバンド、イーストバウンス
- ・ニューヨークのラジオでローテーション
- ・イーストバウンスでのアルバム作品
- ・イーストバウンス期のそのほかの活動
- ・ギターの森士郎とのデュオ作品

## ●第 6 章 新世紀を迎えて～現役音楽家として邁進

- ・運命的な巡り合い、BASS TALK
- ・BASS TALK での EU ツアー
- ・タモリらと設立した ONE レーベル
- ・BASS TALK の正式なデビュー作
- ・ONE レーベルでのそのほかの作品
- ・若者との交流で誕生した Generation Gap
- ・本当は高かった世代間の壁
- ・フレッシュネス重視の THE BLEND
- ・コロナ禍を乗り越えて
- ・ジャズ四方山交流会
- ・怪我の功名
- ・ベーシストが持つジレンマと付き合いながら
- ・最後は海に行けばいい

## ●チンさんの好きなジャズ・アルバム

## ●鈴木良雄 参加作品リスト

すずき・よしお◎1946年3月21日生まれ、長野県木曾福島町（現・木曾町）出身。幼少よりバイオリンやピアノに親しんで育ち、早稲田大学に進学してモダンジャズ研究会に所属する。大学在学中にピアニストとしてプロ活動を開始し、のちにベーシストへ転向。渡辺貞夫や菊地雅章のバンドに参加したあと、1973年に渡米し、スタン・ゲッツやアート・ブレイキーらのレギュラー・ベース奏者として活躍する。1985年に帰国。MATSURI やイーストバウンス、BASS TALK、Generation Gap、THE BLEND といった自身のリーダー・バンドなどで精力的に活動する。2016年には竹書房よりジャズ入門書『人生が変わる 55 のジャズ名盤入門』を出版し、ベストセラーに。“チンさん”の愛称で親しまれ、日本ジャズ界のリーダー的存在である。

オフィシャル・サイト：<https://chin-suzuki.com/>

【株式会社リットーミュージック】<https://www.rittor-music.co.jp/>

『ギター・マガジン』『サウンド&レコーディング・マガジン』等の楽器演奏や音楽制作を行うプレイヤー&クリエイター向け専門雑誌、楽器教則本等の出版に加え、電子出版、映像・音源の配信等、音楽関連のメディア&コンテンツ事業を展開しています。新しく誕生した多目的スペース「御茶ノ水 RITTOR BASE」の運営のほか、国内最大級の楽器マーケットプレイス『デジマート』やエンタメ情報サイト『耳マン』、T シャツのオンデマンド販売サイト『T-OD』等の Web サービスも人気です。

【インプレスグループ】<https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証スタンダード市場 9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

---

【本件に関するお問合せ先】

株式会社リットーミュージック 広報担当

E-mail: [pr@rittor-music.co.jp](mailto:pr@rittor-music.co.jp)